

歯科医学と経営学の交差点 に立つ人生の意味

Meaning of a Life at the Intersection of Dentistry
and Business Management

赤司征大

Masahiro AKASHI



(あかし・まさひろ)

ICDフェロー

WHITE CROSS株式会社

私は岡山の歯科開業医の3代目として生まれ育ち、東北大学歯学部を卒業しました。在学中に、日本の歯科医療を取り巻く環境・課題を客観視することで、歯科医療のエコシステム・その本質を知り、未来への糸口を見出そうという思いから中小企業診断士という経営コンサルタントの国家資格を取得しました。卒後は、大規模歯科医療法人で勤務し、臨床医として働きながら、マネージャーとして歯科医師目線でのマネジメントの導入を経験しましたが、日本の歯科医療が良くなっているという実感の欠如からくる無力感に苛まれていました。これは、先人が作り上げてきた歯科医療への否定ではなく、10年後、20年後、歯科医療が日本社会においてその価値を高めながら産業として成長していく戦略を、その時代を生きて行く私達の世代が見いだせていないことからくる無力感でした。その感覚を振り払うようにUCLAのビジネススクールへ進学したのは、医療界を革新していく上で必要なのは、医療へのより高い視座での分析およびマネジメントの導入とプロフェッショナル自身による関連ビジネスへの参入ではないかと考えたからです。

ビジネススクールでの学びは期待を上回るものでした。浴びるように経営学を学びながら、最先端の医療ビジネスに触れ、公共政策大学院の授業にも参加して米国の医療制度・医療政策についての理解を深めました。また、劇的に台頭・進化していくヘルステックの息吹を体感し、リサーチプロジェクトを通じて、米国と日本の歯科医療の根本的な違いについて学びました。卒業後は、歯科医療界の情報のハブとなるWHITE CROSS株式会社を創業して今に至ります。

企業経営のかたわら、歯科医学×経営学、そして日本×米国という複視座から見えてくる歯科医療の成長戦略をまとめ、拙書『日本歯科医療への提言』『医科歯科連携・多職種連携』を上梓いたしました。また現在、歯科技工問題について向き合う『日本歯科技工への観想』という連載をさせていただいております。

歯科医療に対する日本社会からの期待は、かつてないほどに高まっています。口腔の全身健康への影響が見出され、人々が面として健康的に歳をとれる社会の実現に向けて、乳幼児期から高齢期までシームレスに人々を支える歯科医療が国策として求められています。私だから持ちえる視座から、歯科医療の社会的価値を如何に高めていくかを考えて行動し続けることが、私の職業人生の意味と捉えています。